

広報

中部の森林

もり

迎春

写真：御嶽山から望む光芒（岐阜署・木曽署管内）

私の森語り「山は命の源」
名古屋学院大学 教授 今村 薫

令和7年 年頭のご挨拶

各地からの便り

- ・地域住民を対象とした治山見学会 ほかシリーズ
- ・森林官からの便り、私の森語り、中部の保護林、秘蔵写真・今は昔の林業



林野庁中部森林管理局



2025/No.250



共通課題を地域とともに

中部森林管理局長

もりや かつひこ
森谷 克彦

令和七年 年頭のご挨拶

新年明けましておめでとございます。
います。

日頃より国有林野の管理経営に
特段のご支援とご協力を賜り、心
より御礼申し上げます。

昨年は、一月の能登半島地震、
六〇九月の豪雨など各地で大きな
自然災害が発生しました。被災さ
れた方々にお見舞いを申し上げます
とともに、被災地の復旧・復興に
ご尽力いただいている皆様方に感
謝申し上げます。

富山県・長野県・岐阜県・愛知
県の四県にまたがる当局管内には
急峻・複雑な地形と脆い地質を有
する森林も多く、山地災害の防止、
国土強靱化のため、国有林はもと
より民有林も含めた地域全体の防

災・減災・災害復旧対策などが必
要と考えています。一例としまし
て、昨年の七月豪雨により長野県
の上高地で発生した土石流への対
策として、国有林においても直ち
に応急対策を実施し、本格復旧工
事については、地元の要望に沿う
形で、観光シーズンの利用に配慮
し、入林者の少ない冬期に実施し
ているところです。

また、地球温暖化や生物多様性
の保全など森林の公益性に対する
国民の期待は高く、公益的機能を
発揮させるための適切な事業の実
施に加え、針広混合林への誘導、
樹種・林齢が異なるモザイク状の
森林など生物多様性保全に配慮し
た森林づくりを推進します。さら
に、健康・観光・教育等の分野で
体験サービス等を提供する「森林
サービス産業」の創出を目指す地域

の活動を応援します。当局管内で
は、長野県で八つ、岐阜県で四つ、
愛知県で一つの計十三の自治体に
「森林サービス産業推進地域」へ登
録いただいております。急峻な
地域も数多くあります。急峻な
地域から都市近郊まで、管内各地
の多様な森林それぞれの特色を活
かした取組が拡がり、多くの方が
森林を訪れることにより地域振興
へとつながることを期待していま
す。

一方、当局管内の人工林の主体
は五〇〜六〇年生で、木材として
の利用期を迎えており、伐採・造
林一貫作業、再造林の低コスト・
省力化などの「新しい林業」の実現
に向けた効率的な施策の推進に一
層取り組んでまいります。

また、多様な森林資源を有する
国有林の特性を活かし、伝統的建

築物・文化財、大型公共建築物な
どの資材ニーズにも対応していま
います。

さらに、花粉症発生源対策の着
実な実施やシカ等による野生鳥獣
被害対策、森林・林業に関わる人
材の育成など、民有林・国有林を
通じた共通の課題について取り組
んでいくため積極的に役割を果た
していく考えです。

私事になりますが、現場勤務の
振り出しは中部局管内でした。
三十数年ぶりにこの地に戻り管内
を訪問し、特色ある森林資源だけ
でなく、地域文化の伝承や新たな
取組に挑戦する方々など各地の魅
力をあらためて感じています。

森林・林業に関わる課題やニー
ズは多様化・
高度化してい
ますが、地元
自治体をはじ
めとする関係
者の皆さまと
連携して解決
に向けて取り
組んでまいり
ます。



森林ボランティア・

NPO連携推進会議を開催

【木曾森林ふれあい推進センター】

十月二十九日・三十日の二日間、長野県小諸市の「安藤百福記念アウトドアアクティビティセンター」において、ボランティア団体代表及び当センター主催による「森林ボランティア・NPO連携推進会議」を開催しました。

この会議は、中部局管内の森林ボランティア団体・NPO等が一堂に会し、研修、交流を通じて更なる資質の向上と連携強化を図ることを目的に、平成二十一年から開催しています。

一日目は、会場近くにある、漬物や酒などを貯蔵する天然の冷蔵庫として、その一部が現在も活用されている「氷風穴」の散策や、各団体の活動紹介、連携推進会議の今後に向けた意見交換などを行いました。

二日目は、ワークショップ体験会が行われ、会場敷地内から伐り出した竹を利用した遊具作りが行われ、竹馬や竹とんぼのほか、ス



プーンなども作成されました。

二日間を通して参加者からは、「情報交換が出来て良かった」「来年も参加したい」などの感想が聞かれましたが、会員の高齢化や後継者不足が課題となっている団体もあり、今回の会議を通じて、活動や連携のあり方など、参考となる情報の共有が図られました。

当センターでは、今後も管内の各地で活動されるボランティア団体等の連携を支援してまいります。



参加者全員で記念撮影

近隣市町村職員に向けた
無人航空機操作講習会を開催

【森林技術・支援センター】

十一月二十日、下呂市あさぎり体育館において、ドローン操作の初心者等を対象とした無人航空機操作講習会を開催し、近隣市町村及び飛騨・東濃森林管理署の職員など十名が参加しました。

ドローンは、森林の全体像の把握や災害発生現場の確認、地形測量など多岐にわたり活用されていますが、使用にあたっては、機器に精通した者が少数にとどまり、無人航空機に関する各種法令や手続き等を把握する者についても限られている現状にあります。今後更に有益で効率的なドローンの活用を図るためには、より多くのドローン操縦者の育成が急務なことから、当センターでは令和三年から講習会を実施しています。

講習では、無人航空機の関係法令や基礎知識、操作方法等の座学を行い、受講後に参加者を三班に分け、パイロンを設置した基本的な操作技術や画像を確認しながら



ドローンを操縦する受講生

の飛行実習を行いました。

参加した市町村職員からは、「初めてドローンを扱ったが、側にスタッフがいたので安心して使えた」「林道災害時に危険な場所や対岸等からの被災地の確認に役立つと思う」などの感想が寄せられました。

今後も市町村等職員を交えた講習会を積極的に計画し、それぞれが担当する現場でドローンを活用できる人材の育成に寄与してまいります。

集落上流での対策を実感
地域住民を対象とした治山見学会

【飛騨森林管理署】

十一月二十二日、岐阜県高山市奥飛騨温泉郷に所在する福地国有林にて、地域住民を対象とした治山工事現場の見学会を行いました。

この取組は、集落の上流で実施している治山工事現場を実際に見学することにより、事業に対する理解を深めていただけるよう企画



木製型枠を利用した治山ダム（溪間工）

したもので、地域から十六名が参加しました。見学会所は、オソブ谷と呼ばれる溪流の上流域で、普段は美しい溪流ですが、令和二年の七月豪雨により土石流が発生し、周辺は著しく荒廃しました。被災した当時、直径四メートルを超える巨石が押し流され、見学した工事現場の上流にはその痕跡が残されています。福地地区ではこの溪流から取水し、生活用として利用しており、重要



工事の概要等について説明を聞く参加者

な水源にもなっています。治山事業による森林の造成に期待が持たれていることから、参加者は治山担当者が説明する内容を熱心に聞いていました。

また、現地では参加者から、施工された治山ダム（※）の表面を覆っている木製型枠について、樹種や構造物の耐久性への影響など、率直な質問が出されました。以前は、メタルフォームといった



木製型枠について説明を聞く参加者

鉄製の型枠を使って施工していましたが、近年では、資源が豊富で循環利用が可能な国産の木材（当該現場では、杉材を使用）を有効に活用しており、完成後も現地にそのまま残す「存置型」の型枠材として利用しています。この型枠は、木材が腐食しても内部のコンクリートが劣化しない限り構造物の耐久性に影響はないことや、公共構造物への国産材の積極的な利用について説明を行い、理解を深めていただきました。

地域の山の upstream に国有林があることは知っていても、初めて入ったという方々が多く、過去に施工された何十箇所という治山ダムを目にすることで、上流での地道な工事が生活の安全に役立っていることを実感している様子でした。当署では、地域の安全と健全な林地への回復を目指し、今後も地元や地域の関係者と連携しながら計画的に治山工事の推進に努めてまいります。

（※）今回見学したのは、溪流内に施工した「溪間工」ですが、一般の方にはイメージしにくいいため、「治山ダム」の表現を用いています。

初心者も簡単に捕獲できる
小林式誘引捕獲法の
現地検討会を開催



【東信森林管理署】

十一月二十五、二十六日の二日間、佐久市の荒船山^{あらかふねやま}国有林において、小林式誘引捕獲法現地検討会を開催しました。

ニホンジカによる被害は全国で拡大し、森林・林業分野にとどまらず、農業分野にも大きな被害を及ぼしています。当署管内においても新植地の苗木食害や、樹木の



現地検討会で説明を聞く参加者



考案者の小林氏による「わな」設置の説明と実演

剥皮被害^{はくひ}が確認され、増えすぎたニホンジカの個体数管理が地域の大きな関心事となっています。こうした背景から、初心者でも簡単かつ効率的に捕獲が可能なお小林式誘引捕獲法を普及するため、長野県佐久地域振興局と連携し、地元自治体や猟友会等呼びかけ、約四十名が参加しました。

一日目は、この捕獲法を考案した林野庁経営企画課の小林正典氏（以下「小林氏」）本人による設置方法の説明と実演が行われました。参加者は技術を習得するため、真剣な眼差しを注いでいました。そ



EV自走式冷却搬送機保冷装置の内部

の後、八班に分かれて実際に「くくりわな」（以下「わな」）を設置し、小林氏が巡回しながら設置状況を確認し、改善点などの指導を行いました。この日参加者が設置した「わな」は、有害鳥獣の捕獲等許可を受けた職員（有害鳥獣捕獲従事者）が最終確認を行い、さらに付近の林道沿線にも追加で設置し、合計三十基を仕掛けました。

二日目は、仕掛けた「わな」で捕獲された個体を使用し、安全な保定（個体の動きを制限）や止め刺し方法、「わな」の見回り時・止め刺し時における留意点の指導が行われ、捕獲個体を安全に処理する方法を確認しました。



現地でのEV自走式冷却搬送機のデモンストレーション

また、捕獲したニホンジカのジビエ利活用に向けて、捕獲現場から処理施設まで冷やしながら搬送するシステムを開発した「オンサイテック(株)」の西澤社長によるEV自走式冷却搬送機のデモンストレーションも行われ、参加者は興味深く見入っていました。

検討会の最後に参加者へのアンケートを実施したところ、小林式誘引捕獲法を実践してみたいとの意見が多く寄せられました。今回の検討会を機に、今後も地域での効率的な捕獲技術の普及に努めてまいります。

木曾ヒノキが繋ぐ木の文化
中津川市外交へ的一端を担う



【東濃森林管理署】

十一月二十七日、当署署長が中津川市長を訪問した際、木曾ヒノキが繋ぐ、他の自治体との交流等について話題になりました。

発端は、今年の九月、中津川市長から「木曾ヒノキ備林を一度見学したい」との要望を受けて行った現地案内に遡ります。市長から

「姫路城の昭和の大改修で加子母裏木曾国有林から城の西側の心柱を供給した縁で今も姫路市との交流は続いている」との話があり、

当署署長が姫路城以外にも国内の多くの歴史的建造物にこの地の木曾ヒノキが使われていることを説明したところ、「実際にどのような場所へ供給されたのか知りたい」と興味を示されました。後日、当署が保存する資料から、戦後復興期からの主な納入先リストを提示したところ、市長は、深く感銘を受けられ、事ある毎にこの話題に触れていただけのようになりました。そして「今後、他の市町村

の方々と交流する際、昔からこうした繋がりがあったことが分れば、更に親密度が増すほか、中津川市民も、これら歴史的建造物を訪れた際には、見方が変わるのではないか」との感想も持たれていました。

当署としても、木曾ヒノキをきっかけとして、中津川市と他の市町村との交流の輪が広がることへの一端を担えるのではないかと期待しています。

(参考：納入先リストは、昭和四十五年三月に発刊された「付知営林署のあゆみ」より作成)



見市署長(写真右)より木曾ヒノキ備林の説明を受ける小栗中津川市長(同左)

こども園で森林教室を開催



【木曾森林ふれあい推進センター】

当センターでは、今年度から新たに、未就学児への森林環境教育の支援として、長野県木曾町にある四つの認定こども園で、森林教室を開催することになりました。

これは、子どもたちが森林に関心を持つきっかけづくりや、今後の保育士による森林環境教育の実践に繋がるよう支援するもので、十二月三日から順次各園を訪問しました。

開田こども園では、どんぐりの生態をクイズ形式で学んだあとに、園庭にあるミズナラの樹に聴診器をあてて音を聴いてみました。ミズナラの幹からの「ザーザー」「ゴトゴト」という音に園児たちは驚き、とても不思議そうにしていました。

また、あるこども園では、木を伐り過ぎて災害が起きた山に木を植えるという内容の紙芝居を観た後、はげ山を描いた模造紙に木のイラストを貼り付け、疑似的に植

林を体験しました。

園児数の多いこども園では、自然界での「食う食われる」の関係を学ぶ一風変わった鬼ごっこを体験し、園児たちは予定時間ギリギリまで楽しんでいました。

保育士からは「木曾の山の中で暮らしていることも、森林について知っていることは少なく、小さい時から森林や自然環境について伝えてもらえてありがたい」と感謝の言葉をいただきました。

同じ町内でも、立地条件や園児数により実施するアクティビティに違いは生じますが、今後も各園の要望等を聞きながら開催していく予定です。



緑が戻ったお山と一緒に

希少なヤツガタケトウヒが生育する森林

西岳・ウキ沢ヤツガタケトウヒ希少個体群保護林

設定目的

八ヶ岳及び南アルプスのみに分布するヤツガタケトウヒは、個体数が少ないことなどから環境省により絶滅危惧種（I B類）に指定されています。このヤツガタケトウヒを主体とし、天然カラマツ等も混交する個体群の保護・管理をしています。

地況・林況

八ヶ岳火山群の南麓、標高一、八五〇メートルに位置し、南西向き斜面の土壌が薄く母岩が露出した部分にヤツガタケトウヒが生育しており、土壌が発達した部分にはミズナラが優占しています。

シリーズ

中部の保護林(第45回)

所在地
長野県諏訪郡富士見町



国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年（大正4年）以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイアルイン：026-236-2612



※詳細は、コードを読み込んでください。

シリーズ

森林官からの便り

国有林の現場の最前線で、働く森林官の仕事や、管轄する地域の特色などを紹介します。

【北信森林管理署

水内森林事務所】

森林官 古田 誠

水内森林事務所は長野県栄村、山ノ内町にある五つの国有林約一三、六八ヘクタール及び新潟県津南町にある官行造林地を管理しています。

栄村にある国有林には、日本百名山である苗場山や、二百名山の



初冠雪の鳥甲山

佐武流山などがそびえ、その周囲には、中部局が設定した森林生態系保護地域や生物群集保護林など多様な森林が広がっています。

またこの地域は、秘境と呼ばれる秋山郷、長野・新潟・群馬各県からアクセスする豊富な登山ルート、里山巡りとして整備された信越トレイル・ぐんま県境稜線トレイルなど、初心者から上級者まで山と森林を楽しめるアクティビティが充実しています。秘境なのでアクセスが大変かと思いつながら着任しましたが、登山者や観光客に聞いてみると「首都圏からそれほど時間はかからないので楽し」とのことでした。確かに、車で栄村から長野市内へ行く時間で新潟県長岡市や群馬県高崎市まで行けてしまいます。興味がある方は当管内にお越しいただき、紅葉を遠くから眺めるもよし、登山が厳し



エメラルドグリーンが美しい夏の中津川

いなら近くまで行って温泉巡りもよし、春の根曲がり竹や秋の舞茸など季節の味覚を味わうもよし、思う存分、栄村ひいては当署管内の市町村巡りをされてはいかがでしょうか。

■未来の担い手へのメッセージ

コロナ禍にこの事務所に異動しましたが、村の方々に温かく迎えられることができました。これも林野庁の最前線である地域密着型の森林事務所であり、諸先輩方が築き上げてき

た財産だと痛感しました。現場業務においては、奥山への往復で体力的にもきついときもあります。が、その中で業務が終了したときの達成感は格別です。さらに国有林は何度行った現場でも行くたびに四季折々の新たな発見があり、初めて行く現場はドキドキとワクワクが止まりません。ぜひこの地域密着型の職場で新たなドキドキとワクワクをしてみませんか。



信越トレイル調査中の筆者



〈シリーズ「私の森語り」〉

シリーズ
「私の森語り」
もりかた

森林・林業との関わりの中で、
様々な課題に挑戦されている方
の取組を紹介します。

「山は命の源」



名古屋学院大学
現代社会学部
いまむら かのる
教授 今村 薫

■自己紹介

私の専門分野は生態人類学で、人と自然の関係を探求する研究領域です。これまでアフリカや中央アジアの砂漠や乾燥地で狩猟採集や遊牧で暮らす人々の文化と生活を調査してきました。調査地から帰国する度に、日本の緑と豊かな水流の美しさと貴重さを深く感じるようになり、十五年ほど前から日本の山村の生活誌と森林利用を研究しています。

■活動内容

里山と人のつながりを知りたくて、飛騨市宮川村および長野県天龍村のお年寄りから、山の生活の歴史と実態を聞き書きしています。

す。春の山菜・筍(ネマガリダケ)採りから始まり、秋のキノコ採り、鹿や猪の狩猟、一年を通じた水田の作業、さらにかつての馬・牛飼、長い冬の暮らし方などの四季に応じた在来知、四季カレンダーと組み合わせられた祭りや伝統芸能を記録しています。



天龍村例祭における奉納舞

山村には縄文時代から続く日本の知恵がたくさん蓄積されているにも関わらず、どこでも聞く言葉が「山は荒れている」といった嘆きです。戦後、植林された杉・檜が手入れされずに密集したまま放置されている現状、鹿や猪が里においてきて畑をあらす獣害、これらに対処する人々の高齢化など、問題が山積みです。

現在、私ができていることといえよ、

できるだけ様々な場に参加して体験し記録することと、学生への啓蒙です。

これまで学生を引率して行ってきたことは、いなべ市での林業実習、郡上市の里山保全組織『猪鹿庁』での狩猟体験、飛騨市宮川村におけるフィールドワーク、犬山市での竹林整備と土中環境改善ワークショップなどです。

また、二〇一六年の『山の旦』制定にともない、畠山重篤氏(特定非営利活動法人「森は海の恋人」代表)を大学に招いて公開シンポジウムを開催しました。海の水産物を育てているのは、山の落ち葉や



学生林業体験 (いなべ市)

有機物が河川を経て流れ着いたものであることを、学生や聴講してくださった一般の人々が理解してくれたのではないかと思っています。



学生狩猟体験 (郡上市)

■メッセージ

日本は、山に降った雨水が土中に潜り、その後、何度も地表に出ては地下水脈に戻るを繰り返した水流が、最終的に海洋に出ます。その意味で、日本の山は大きな水甕です。そして、その山に分け入れば、そこには多様な動植物が生きており、人間は生き物たちの時間に合わせて生きてきました。すべての命の源である山と森林の貴重性、重要性を、今後発信していきたいと思っています。

■連絡先

名古屋学院大学熱田区熱田西町1-25
名古屋学院大学現代社会学部
今村研究室

https://k-imamura.com/
PSCA/contact.html



シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第45回

中部森林管理局総務課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともに紹介します。

「裏木曾」その九 小谷狩①

「山落とし」(第四十四回参照)で斜面を利用して降ろされた木材は、その後、谷筋を水



大正時代頃、川の上流部での小谷狩の風景(飛騨)丸太を並べた滑り台的な装置「シュラ」が多用され、「山落とし」と見た目は非常に似ている

主に利用した運材で徐々に川の本流まで送られていきます。この行程を総称して「小谷狩」と呼びます。

「山落とし」では主に自重で斜面を滑り落とされてきた木材ですが、緩勾配となるにつれ自重のみでは動きにくくなりま



大正時代頃の木曾での小谷狩の様子(上流部)

すので「小谷狩」では水も用いてその浮力を利用して運材を行います。ただし、同じ「小谷狩」と呼ばれる行程であっても、水量が少ない上流部と水量が増加する下流部とではその様相は大きく異なります。上流部での「小谷狩」の風景は「山落とし」とよく似ています。

大正九年、裏木曾からの神宮(伊勢)用材を谷筋で運搬する様子(現在の東濃森林管理署管内)。特に巨大な材であり一般的な運材風景とはかけ離れているが広義の小谷狩と言える。



ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。

当サイトへは、コードを読み込んでください。



「木曾悠久の森」
管理委員会を開催

【計画課 木曾森林管理署】

木曾森林ふれあい推進センター

十二月四日、木曾署の会議室において、令和六年度「木曾悠久の森」管理委員会を開催しました。

「木曾悠久の森」は、世界的にも希少で貴重な存在であるヒノキ、サワラ等の木曾五木を含む温帯性針葉樹林を保存・復元するため、木曾地方の国有林に設定している「森林生物多様性復元地域」の愛称です。学識経験者や地元関係者等で構成する管理委員会を設置し、ご意見をいただきながら取り組んでいます。

今回の管理委員会は、伊勢神宮式年遷宮の行事の一つとして令和八年に開催が予定される「仮御樋代木伐採式」の御用材の伐採計画案についての意見聴取を行いました。委員会の開催に先立って、委員による現地確認を行い、伐倒の方向や伐倒・搬出に伴う支障木の発生状況等について質疑応答を行いました。



御用材候補木の現地確認の様子

委員会においては、出席委員全員により適当と判断され、このほか、特殊用材の需要・要望に対する対応手順や、赤沢自然休養林における危険木の取扱いについて、検討を行いました。

「木曾悠久の森」の取組は、数百年の超長期に及ぶものであることから、管理委員会の委員や地域の関係者等から意見を頂戴しながら、引き続き、一歩一歩着実に取組を進めてまいります。

「木曾悠久の森」設定十周年
記念シンポジウム開催のご案内

「木曾悠久の森」は、平成二十六年に設定してから、本年度で十年を迎えました。

温帯性針葉樹林の姿やその希少性、歴史的・文化的な建造物等の維持に果たしてきた役割を共有するとともに、自然生態系の回復に向けた先駆的な取組として、この森の将来の姿を地域とともに考えるシンポジウムを開催いたします。

日時 令和七年二月二十日(土曜日)

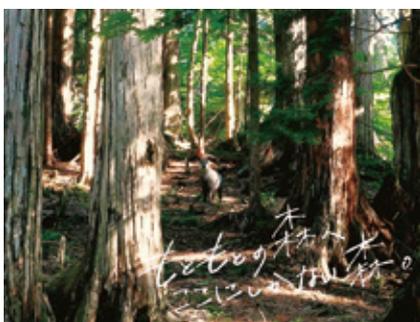
十三時～十六時三十分

会場 上松町ひのきの里

総合文化センター

(長野県上松町 JR上松駅前)

お申込み不要・参加費無料です。



地域の皆様や関係者はもとより、一般の方々のご参加をお待ちしています。

5年ぶりに中部森林管理局にて対面開催!

「令和6年度
中部森林・林業交流発表会」

令和7年2月13日・14日の2日間にわたり、国有林及び大学、高校、民有林の研究機関等による森林・林業に関する試験研究、技術開発、地域連携の取組についての交流発表会を開催します。

プログラム等の詳細は、後日HPにて公開します。

編集長だより

(中部の森林へのご意見・ご要望等の投稿は、migoro@maff.go.jp まで電子メールでお送りください。)

明けましておめでとうございます。お正月にはおせち料理、年末は黒豆・田作り・数の子・紅白なます・松前漬け・筑前煮・ぶりの照り焼きなどの準備に勤めました。それぞれの食材に縁起を担ぐいわれがあり、買うにせよ作るにせよ、習わしとして、年初を祝う気持ちとともに大切にしたいと思います。

近くの神社では材料確保と技術の伝承が困難となり、しめ縄飾りが全て合成繊維製となりました。しめ縄づくりの技術としては継承されていても身近とは言えなくなる、おせち料理もいづれ同じようになる(すでになっている?)のでしょうか。

巳年は新たな挑戦や変化に前向きになる年だそうですね。どんな年にするかは自分次第!今年もどうぞよろしくお祈りします。

中部森林管理局のホームページ等へのアクセスは、以下を読み込んでください。



中部森林管理局
ホームページ

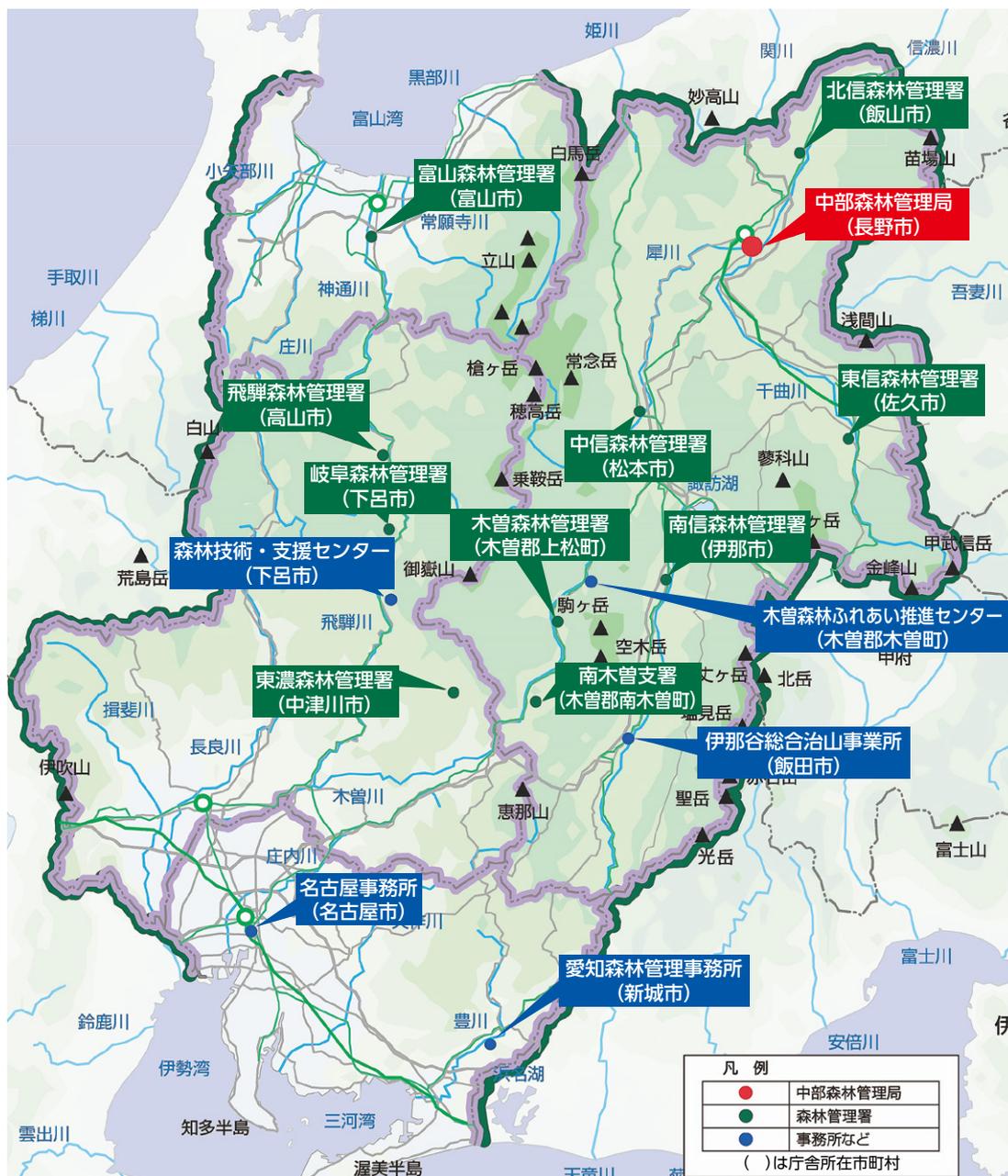


広報
「中部の森林」



用語の解説

本誌文中に掲載している主な専門用語・業界用語を解説。



名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市中熱田区熱田西町1-20	TEL 050-3160-6660	c_nagoya@maff.go.jp
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	TEL 050-3160-6080	c_toyama@maff.go.jp
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	TEL 050-3160-6045	c_hokushin@maff.go.jp
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	TEL 050-3160-6050	c_chushin@maff.go.jp
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市白田1822	TEL 050-3160-6055	c_tohshin@maff.go.jp
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	TEL 050-3160-6060	c_nanshin@maff.go.jp
木曽森林管理署	〒399-5604	長野県木曽郡上松町正島町1-4-1	TEL 050-3160-6065	c_kiso@maff.go.jp
南木曽支署	〒399-5301	長野県木曽郡南木曽町読書3650-2	TEL 050-3160-6070	c_nagiso@maff.go.jp
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西之一色町3丁目747-3	TEL 050-3160-6085	c_hida@maff.go.jp
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	TEL 050-3160-6090	c_gifu@maff.go.jp
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	TEL 050-3160-5675	c_tohno@maff.go.jp
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	TEL 0536-22-1101	c_aichi@maff.go.jp
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	TEL 050-3160-6095	c_gijutsus@maff.go.jp
木曽森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曽郡木曽町福島5473-8	TEL 0264-22-2122	kiso-fureai@maff.go.jp
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	TEL 050-3160-6075	

発行：林野庁 中部森林管理局
編集：総務課 広報
〒380-8575 長野県長野市栗田715-5
電話：026-236-2531
Mail：migoro@maff.go.jp
http://rinya.maff.go.jp/chubu/

メールマガジンに登録いただくと、広報「中部の森林」を発行日と同時にデジタル版を毎月配信します。
(毎月10日発行※編集の都合で、発行日が遅れることもあります)
登録サイト <https://mailmag.maff.go.jp/m/entry>



本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。